

情 報 公 開 文 書

研究の名称	重症大動脈弁狭窄症の全身麻酔における血圧低下予測モデルの作成
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	附属病院麻酔科 講師 伊東久勝
研究の概要	【研究対象者】 2013 年 5 月から 2025 年 5 月までに富山大学附属病院で治療を受けた重症の大動脈弁狭窄症患者のうち経カテーテル的大動脈弁留置術を施行された患者を対象とします。 【研究の目的・意義】 本邦では高齢化に伴い、重症の大動脈弁狭窄症患者が増加傾向にあります。重症の大動脈弁狭窄症患者の全身麻酔では、麻酔導入により高度低血圧および心原性ショックを引き起こす可能性があります。これらの合併症が起こる確率や予測因子を検討した研究はほとんどありません。本研究では当院で施行した重症の大動脈弁狭窄症患者の全身麻酔を後方視的に検討を行い、全身麻酔により高度低血圧を引き起こす確率および予測因子を検討し、より安全な麻酔管理の確立に貢献します。 【研究の方法】 カルテを参照して集積された臨床情報から麻酔中の血圧を予測する機械学習モデルを作成します。臨床情報は学習用データ、チューニング用データ、テスト用データに切り分け、学習用データを使ってモデルを作成し、チューニング用データでその性能を評価、モデルの調整を行い、テスト用データでモデル精度を検証します。機械学習には、必要なモジュールを搭載した scikit-learn という Python3 用ライブラリを用います。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日 【利益相反の状況】 【研究結果の公表の方法】 2026 年臨床麻酔科学会で報告し、国際誌 (Journal of Anesthesia) に投稿する。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	術前の基本的な患者背景(年齢、性別、体重、身長)、身体機能(NYHA 分類、6 分間歩行テスト、CSHA スコア)、手術リスクスコア (Euro2 および STS score)、バイタルサイン(血圧、心拍数、動脈血酸素飽和度)、合併症の有無、血液検査データ、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、および術中のバイタル変動(特に麻酔導入前後の血圧)、昇圧薬使用量、また術後から退院までの経過や合併症の有無に関する臨床情報を電子カルテ記録から調査する。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び機関の長の職名・氏名	機関：富山大学附属病院 責任者：富山大学附属病院長
研究資料の開示	研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等

	の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究代表機関における研究責任者の所属・氏名）	責任者：富山大学附属病院麻酔科 講師 伊東久勝
研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7377 FAX 076-434-5040 E-mail hisa@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学大学附属病院麻酔科 講師 伊東久勝